

大田病院「医師の負担の軽減及び処遇の改善に資する計画」 中間報告（2024-25年度）

2026(令和8)年 2月24日

令和7年4月1日現在の勤務医の勤務状況

1. 医師数 常勤18名 非常勤19名
2. 常勤医師平均業務時間 週平均39.6時間（うち時間外2.2時間 ※宿日直除く）
3. 宿直回数 平均月3.2回（最高6回 最低0回）

目標

勤務医の負担軽減をすすめるため、病院全体で協力体制を整える。医師事務作業補助者を配置するとともに、他職種への分担（タスクシフティング）を進める。あわせて医師の働き方改革の対応に向け、時間外労働の削減に向けた計画を作成する。

分野	2025年度までの計画	達成基準	方策	2024年度の到達	評価
医師業務のタスクシフト・効率化	クリニカルパス入院の定着を図る	クリニカルパス入院の定着を図る	クリニカルパス委員会でパスの導入と円滑な運用を図る	概ね実施できている	○
		入院診療に関わる職員が医師の指示に基づきパス適用登録を行うことができる	当該職員に対し、パス学習会とパス適用実習を行う 研修医向けにパス学習会を行う		
	夜間休日帯の宿日直医師の業務軽減	臨床検査技師・放射線技師については宿日直体制をとっている。薬剤師は夜間休日の連絡当番を組んで対応する	臨床検査技師、放射線技師、薬剤師の体制確保	臨床検査技師・放射線技師の宿日直体制、薬剤師のオンコール体制を運用中	○
	検査に伴う食止めや内服薬の中止など、必要事項の説明を行っている	全診療科での実施	看護師体制の確保		
薬剤管理	新規採用薬情報、添付文書改定情報等の医薬品情報を集約し、医師に情報提供する	DI室ニュースの継続発行と定期的な提案・報告	病院管理会議・医局会議や病棟カンファレンスでの情報提供	DI室ニュースが定期的に発行されている 薬局から必要な情報提供が適宜なされている	○
		医療の質向上のため、多職種と連携してチーム医療を活性化させ、日常診療をすすめる	多職種と連携し、院内での薬剤関連の改善の取り組みを行う	職員向けの学習、在庫管理の見直し、事故ヒヤリ報告の検討	職員向けの定期的な学習会を実施している
医療機器管理	MEが常駐し、医師・看護師業務のタスクシフト/シェアを進める事でチーム医療の一員として力を発揮する	・内視鏡検査時の補助 ・術中に行う麻酔管理の補助	技士の育成・研修	概ね実施できている	
地域の他医療機関との連携体制	地域に連携登録医を増やし、紹介患者増、連携懇談会開催を進める	連携登録医150件超を目標とする	地域連携室による開業医訪問 連携懇談会の定期開催を通じて、連携の強化	連携登録医 152件 地域連携室と事務長による地域医療機関への訪問活動を実施	○
短時間正規雇用の医師の活用	週4日常勤勤務（正規雇用）の医師の採用（育児・介護による短時間勤務含む）	勤務形態の多様化に対応する	採用活動の推進	短時間契約の医師数 10人 週4常勤医師の規定を整備中	○
医師事務作業補助者の配置	医師事務作業補助者の配置により、診断書・紹介状の作成入力補助を行う	常勤医師（研修医以外）の5割で活用	医師事務作業補助者の増員・育成	診断書作成補助の対象医師 71.4%	○
	上記以外の医師事務作業についても、補助を行っていく	・臨床研修制度に係る分野 ・医局の各会議の準備、議事録作成 ・医師の勤務状況・労働実態の把握、管理医師への報告		医師事務作業補助者 7人（1名増員） 診断書作成以外の分野も実施中	○
医師の勤務計画の改善	当直翌日の配慮として、当直明けの午後半日休暇の保障	取得割合を3割→5割にする	医師面接や各科会議にて取得推進を図る	当直明け保障の取得率 33.3%	×
	一定時間の休息時間の確保（勤務間インターバル）	始業から24時間以内に9時間の連続した休息時間を確保する（宿日直に従事する場合は、始業から46時間以内に18時間の連続した休息時間を確保）	医師の増員 宿日直業務における非常勤医師の活用	A水準・宿日直許可だがインターバルは確保 宿日直を担う非常勤医師を増員	○